



みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1/TEL 045-628-6100(代)
http://www.yokohama.jrc.or.jp/

・発行：2020年9月 医療連携センター

Contents

- P1 ●神経内科の体制リニューアル
- P2 ●当院における甲状腺手術
- P3 ●当院のアピアランスケアについて

- P4 ●医療機関専用ホットライン開設のお知らせ

神経内科の体制リニューアル

神経内科 部長 大久保 卓哉



本年4月より、田中宏明前部長の後任として東京医科歯科大学から大久保が着任致しました。当科が扱う疾患は、頭痛・脳卒中・認知症・パーキンソン病・てんかんの5大疾病から、内科疾患に伴う神経疾患、神経難病

に至るまで多岐に渡ります。当院では従来通り脳卒中、てんかんや痙攣発作、髄膜炎や脳炎、ギラン・バレー症候群など神経救急にウエイトを置いています。多発性硬化症、重症筋無力症、CIDP、筋炎などの神経免疫・炎症性疾患、ALS、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患の診断・治療に関しても、血液・髄液検査、核医学を含む画像検査、電気生理検査や神経・筋生検などの特殊検査を含め、積極的に対応しております。

本年6月からは、毎週月曜日にもの忘れ外来を再開しました。抑うつ、興奮、妄想など精神症状が強い際には、精神科のもの忘れ外来にお願いすることもあります。当科では硬膜下血腫、正常圧水頭症などの「治る認知症疾患」を中心に鑑別し、状態が安定しましたら紹介元の先生方と2人主治医制を導入し、毎年認知機能や画像をフォロー

させていただきたいと思っております。また、本年7月より脳神経外科と協力してニューロホットラインを開設致しました。脳卒中や神経救急疾患を疑ったら045-628-6865へ直接お電話下さい。

現在、神経内科は非常勤を含めて以下の7名体制です。横浜市民の皆様のお役に立てるよう引き続き尽力して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



- 大久保 卓哉 (東京医科歯科大 H10 年卒、部長)
- 金澤 俊郎 (東京医科歯科大 H11 年卒、副部長)
- 関口 輝彦 (東京医科歯科大 H16 年卒、医長)
- 丸子 真奈美 (横浜市大 H24 年卒)
- 谷口 俊太郎 (宮崎大 H27 年卒)
- 中村 圭佑 (順天堂大 H29 年卒)
- 入岡 文香 (東京医科歯科大 H15 年卒、非常勤)

■ 当院における甲状腺手術

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部長 田口 享秀



甲状腺手術はその解剖学的特徴から施設により内分泌外科(外科)または頭頸部外科(耳鼻咽喉科)のどちらか又は両方で担当することになりますが、

みなと赤十字病院では主に耳鼻咽喉科・頭頸部外科で手術を行っております。当科での甲状腺手術の対象としましては、甲状腺良性腫瘍だけでなく、甲状腺癌、バセドウ病、副甲状腺腺腫など幅広く適応しております。

甲状腺疾患の受診・紹介先としましては、内分泌内科、外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科が窓口になります。内分泌内科、外科受診の患者様に関しましては、各科での診察・精査・加療ののち、手術適応が考慮される場合に耳鼻咽喉科・頭頸部外科併診となります。

院内連携としましては、内分泌内科、病理部、耳鼻咽喉科・頭頸部外科にて甲状腺カンファランスを毎

月行っており、症例検討、治療方針や摘出標本の病理診断の確認など診療精度を高めております。また、甲状腺癌高度浸潤例において気管環状切除・端々吻合や縦隔に操作が及ぶ場合は、呼吸器外科と合同で手術を行い、このような進行症例の術後管理として集中治療室(ICU、HCU)も整備されております。甲状腺分化癌高リスク群との診断で甲状腺全摘出を行った症例においては、当院放射線科にて術後の放射性ヨウ素内用療法(remnant ablation: 30mCi)は可能です。さらに放射性ヨウ素治療抵抗性の残存・再発症例に対する分子標的薬(lenvatinib、sorafenib)治療も行っております。

最近のトピックとしましては、9月以降に施設基準を取得し、内視鏡下甲状腺手術を開始する予定です。まずは甲状腺良性腫瘍に対する葉切除を対象として、低侵襲で美容的にも優れた本術式を導入していきます。

今後ともご紹介賜りますようお願い申し上げます。



■ 当院のアピランスケアについて

「アピランスケア室開設」

緩和ケア認定看護師 **佐藤 利枝**

外来化学療法センターでは、2019年にアピランスケア室を開設しました。アピランスケアとは、治療によって変化した外見を治療前の状態に戻すことを目標にするのではなく、外見の変化に起因する患者さんの苦痛を軽減し、その人らしい生活が出来るように支援するケアです。

外来化学療法センターでは、治療を開始する前にオリエンテーションを実施しています。アピランスケアが必要になる患者さんには、オリエンテーションの時から介入し、出現する外見の変化や対処方法を説明することで、不安を軽減したり、セルフケア能力を高め、治療に望む態勢を整えることが出来ています。治療開始後に外見の変化が出現した時には、患者さんと共に対処方法を考え、治療が継続出来るように支援しています。

今後も患者さんが気軽に相談できる身近な存在となり「患者さんらしく生きる」を支えていきたいと思っています。



アピランスケア室
壁のシールは季節によって張り替え、
季節感を大切にしています。

「見た目の変化は大きな悩み」

がん相談支援センター 医療ソーシャルワーカー **亀山 友美**

がん医療の進歩により、治療しながら社会生活を送る方が増えてきました。また、治療の副作用に対する薬剤の開発も進み身体的苦痛が軽減されてきたことで、がん患者さんの抱える悩みも変化しています。例えば、乳がん女性の苦痛第1位は「髪の脱毛」、第2位「乳房切除」第3位「吐き気、嘔吐」と身体的苦痛より上位に外見の変化が大きな悩みとしてあがっています。

がん治療は、手術だけではなく、抗がん剤や放射線治療により脱毛をはじめ、爪・皮膚症状、手術による形の変化のような『外見(アピランス)の変化』をとまないとします。外見上の悩みがあることで、自分らしさの喪失や対人関係の不安により、社会から孤立した感覚にまで陥ってしまうこともあります。

がん相談支援センターでは、治療が始まる前からアピランスケアや就労支援を行なっています。また化学療法センターと連携し、ウィッグ使用やスキンケア方法をご紹介できるようなサポート体制を整えました。こうした支援を活用しながら、がんに立ち向かう患者さんが、自ら納得し、外見上の課題を克服し、人と関わりながら仕事や社会生活が送れるよう、支援していきたいと思っています。

がん相談支援センターは、地域のどなたからでもご相談を承っております。地域の方々のお力になれるよう努力して参りますのでどうぞ宜しくお願いいたします。



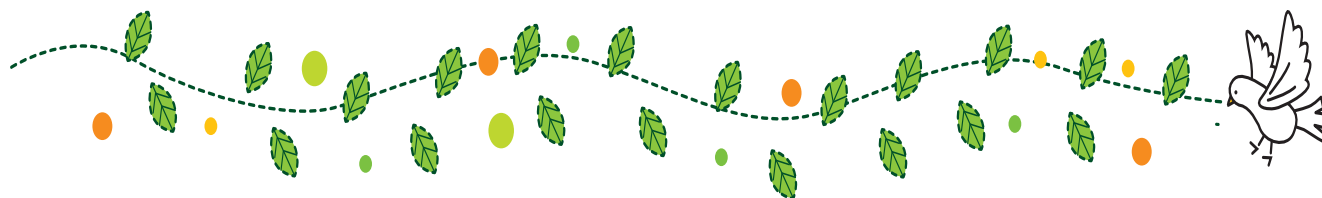
医療機関専用ホットライン開設のお知らせ

当院では、これまで行ってまいりました「心臓血管外科ホットライン」に加え、令和2年7月1日より、「循環器ハートライン」、「ニューロホットライン」を開設いたしました。

循環器疾患、神経疾患で緊急受診が必要な場合は、専用ダイヤルにおかけいただければ、24時間365日、Dr. to Dr.にて担当医が直接対応いたします。

どうぞお気軽にご利用くださいますようお願い致します。

医療機関専用(Dr to Dr/24時間365日)	
ホットライン	
■ ニューロホットライン	045-628-6865
脳卒中・神経救急疾患を疑ったら、相談！	
■ 循環器ハートライン	045-628-6867
循環・呼吸状態・リズムに異常が認められたら、気軽にご相談を！	
■ 心臓血管外科ホットライン	090-5560-0584
大動脈緊急症を疑ったときは、即！	
■ その他の診療科・救急受診・外来予約	
医療連携センター	045-628-6365
医療連携センターより各診療科Drへ転送	
 横浜市立みなと赤十字病院	045-628-6100
〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1	045-628-6101 (Fax)



紹介患者さんのお問い合わせご予約は医療連携課で承ります

電話 045-628-6365(直通)/FAX 045-628-6367(直通FAX) 受付時間 平日 8:30~17:00



横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下3丁目12番1号
TEL:045-628-6100(代表) FAX:045-628-6101



<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

みなと赤十字

病院ホームページ

